



青年江原会報

復刊第19号(通刊24号)

2004.3.1

http://www.seinenkougen.com/

発行：青年江原会 〒862-0972 熊本市新大江1-8 熊本高等学校江原会館内 ☎096-362-5866 制作：青年江原会編集委員会 ☎096-363-4654 (岡村郷司)

学年の鎖を断つために

30 飾馬奉納 周年記念

(慣例により、本文中、青年江原会は卒業年次を()書きで()会と記載します。また、歴史上やむを得ず、当時の呼称を使用していますので、ご理解ください。)

青年江原会は会員の親睦を旨とし、「集まることに意義がある」を根本理念とする。当初の会則に謳われていました。昭和61年(1986)に江原会の下部組織として正式に認められ、組織の再編で平成4年(1992)以降は熊本江原会の下部組織と定義されていますが、その活動は県内にとどまらず幅広いものです。

今年、会は飾馬奉納30周年を迎え、片山和隆実行委員長(44会、祭りの総取締)のもと実行委員会が結成され、記念事業の準備が進められています。この機会に、簡単ですが、これまでの青年江原会の歩みを振り返ってみました(独断偏見はお許しください)。

青年江原会設立

昭和46年(1971)に仲井徳定先輩(34会等、江原会の有志が集まり、第1回の紅蘭亭での会議を含め計6回の設立準備会を経て、昭和47年(1972)3月18日に創設されました。創設の理由は、熊中、熊高の卒業生は先輩、後輩の関係が非常に薄く、お互いの面識もほとんどない、特に熊高卒の比較的若い層にその傾向が強い(八〇年史)ことを懸念したことでした。創設時は昭和31年卒から昭和40年卒までで構成され、以後若い層も入れていくと決まっていたようです。(祭りの趣意書が31年卒から始まっている理由ですね)当時の活動としては、年度初めの総会の他、講演会、ボウリング大会、新年会等の例会と秋に済商会、済々覺商工会とのソ

青年江原会を卒業します

青年江原会会長 吉浦 正剛 (56会)



わが56会で青年江原会の事務局長、副会長の任にあった鬼木和尚が、宗教上の理由で「ピンクの法被」(注)をどうしても着られないというので、私が会長職を仰せつかりました。重責とは思いつつ、鬼木和尚はじめ56会諸君の後押しに励まされ、その任を引き受けました。

当初会長を引き受けるにあたり、会の運営に関して次の二点を考えました。一つ目は、飾馬奉納30周年の前年にあたるので、その準備を行うこと。二つ目は、各行事の開催時期や内容を見直して、いまの時代に合った行事にしていこう。この二点でした。

一点目の飾馬奉納30周年の準備に関しては、今まさに始まったばかりです。片山総取締と相談しながら30周年委員会を組織し、本格的な準備にとりかかったところ。この事業は来年度が本番です。次の会長はたいへんだとは思いますが、しっかりとお願いします。

二点目の各行事の見直し(というほど大袈裟ではありません)を行いました。その結果、「ディスカバー士君子」(士君子探訪)をとりやめ、「ウェルカム青年江原会」を正式行事とし、担当を副会長学年としました。当会へ参加する学年の幅を広げ、若い人へのアピールを行うことが目的です。今年度担当の57会諸君の頑張りで、盛会になりました。その縁で何人かの後輩諸君が、楽隊はじめ馬廻り隊、纏隊に入って、当初の目的を果たせました。今後ますます楽しい行事として発展させてください。

後輩諸君に一言申します。当会は熊高&士君子をキーワードに、集まってワイワイやりながら旧交を温める、あるいは新たに交流することを目的としています。ところが最近はこの職場でも時間的に厳しくなり、当会に参加する時間を捻出するのに苦労されているようです。世代的にも40歳前というのは職場や家庭での責任が重くなり大変な時期です。しかし、そういう時期であるから「つながり=人脈」が大事だと思いますし、お互いに啓発しあうことが一層重要だと思います。仕事だけ家庭だけでは人脈や知識が偏りがちになるかもしれません。当会にきて大いに交流し、話し合えば、目から鱗が何枚もとれると思います。積極的に参加していただき、同級生のみならず上下級生とも大いに交わり啓発し合ってください。

先輩方に一言申し上げます。私を当会に導き、指導してくださった諸先輩方、誠にありがとうございました。お陰さまで目から鱗を何枚も落とすことができました。親会でもご指導とご鞭撻たまりますようお願いいたします。

最後に56会の諸君へ。ここ数年間お世話になりました。最後まで私を見捨てずに、励まし協力していただき、感謝の言葉もございません。本当にありがとうございました。我々56会は青年江原会を卒業ですが、ますます交流を深めていきましょう。これからも一緒に遊んでくださるようお願いいたします。

注) 飾馬奉納団体の責任者が着る法被。本来は紫色であるが、ある年、漂白してしまいピンクになってしまった。以来、青年江原会では「ピンクの法被」といって会長職のことを指します。

祭り初参加!!

設立後、盛んな活動がおこなわれていましたが、次第にマン

援団から借用)、ラッパ、纏は

これは、青年江原会 永田壮一

「ディスカバー士君子」

活動は祭りにとどまらずますます盛んに。平成4年(1992)11月19日、熊本市市民会館にて青年江原会フォーラム「ディスカバー士君子」が開催されます。これは、青年江原会 永田壮一

現在の主催行事と開催目的は・・・
ウェルカム青年江原会 (H14に実行学年58会が開催、H15から本会主催行事。県内在住の大学生への周知を目的)
レクリエーション大会 ソフトボール大会が、前年、雨で流れたため、2年続けてお流れを避けるためにH6に52会がボーリング大会を開催。その後、ボウリングかミニバレーが恒例。6月開催は、ソフトボールが母校グラウンドの空く模試の日に開催された名残
忘年(新年)会 H5年にソフトボールが流れたため、幹事学年の51会が忘年会を開催したのがきっかけで、その後、祭実行学年の3年度前の学年が行うこととして定例化

祭りの実行学年がとり行う行事・・・
花見 かなり前から春に開催。実行学年の最初の公式挨拶の場。桜でなく、藤の花見の年も(理由あり)
事務所開き 祭り運営の安全祈願。神主招聘は52会から。巻物(52会依頼で中川攻平先輩(39会、前総取締)の指示で作成)を実行委員長が伝授される
結団式 かなり前から学校で開催、祭り参加の結団
飾り開き パルコ、下通、学校(H日航)などで開催。陽陰(馬飾り)に神様をお迎える

苦勞の末の調達で、第一回(高宮宏実行委員長)の参加となりました。
9月13日の飾り卸には、50余人が参加し、校長先生の激励、ブラスバンドの見送りで熊高正門から出発。(第一回からスタイルは変わっていないのに驚きです)9月15日の本祭には、広町の魚住勉先輩(36会)の魚菜山本屋(前に300余人が集結し、南條伸幸先輩(高3回)のかけ声で酒樽を開き初出陣となりました。この参加の目的は、青年江原会に活力を吹き込むということだけではなく、参加団体も6団体程度に落ち込み、年々さびれていく郷土の祭りの復興へ尽力しようという目的もあつたようです。(流石は江原会! なお、高校OB団体初参加はどっちかについては、済々覺も、同時に偶然に意思を表明し、参加とあります)

飾馬奉納年表(主な出来事)

昭和50年	人数250名奉納(順5黄、18団体中)
51年	子どもたちのためのポニー登場
52年	学年幹事制(36会担当)導入、山本孝史先輩(31会)寄贈の太鼓初代、後、現役生に寄贈登場
53年	高校OB連合会の前夜祭が市民会館でスタート熊高、済々、熊高、熊中(第一商附)
54年	「熊高ボシタ音頭」登場
55年	2代目法被初代白法被(通称寝間着?)から紫紺、マークも青年江原会から熊高の校章に変更。大人最大560名参加。
この時期で、うちの祭りの原型が形成されているのではないかと推察されている。	
56年	宮崎美子先輩(52会)参加
57年	参加者数の規制により大人500名
58年	飾り卸コース大幅に改変(かけ声「ボシタ」に統一)
61年	太鼓、3代目法被登場(太鼓・現在の朱胸、黒擬宝珠付きの赤太鼓、山本孝史先輩(高8)、河上壮介先輩(高8)、又吉真雄先輩(高12)の提案で購入。(S61)63の寄付集めと44会寄附の一部で300万円、今では1000万円を超える価値)
62年	小型纏50本登場
63年	現在の法被4代目登場
平成元年	最大の860名参加
この時期は巨大参加者の時期	
2年	参加人数が子どもを含めて500名に規制、かけ声「どーかい」に変わる
3年	台車規制で熊高名物太鼓が降りる
4年	台車禁止(リヤカー様のもの)に、夕陽兵へ中学生以下出場禁止など
ある意味で規制の時期であるが、一方で、祭りは安定期に入ってきたのではないかと推察されている。	

青年江原会、未来へ

飾馬奉納30年、会創設後33年、最初の約10年は、いろいろな活動が試みられ、また、祭りにおいても現在のスタイルが徐々に形成されていった時期、次の約10年は、成長しつつも次第に安

飾馬奉納30周年記念事業

記念誌発行(7月予定)
記念パーティ開催(7月23日、Hキヤッスル)

ごあいさつ

校長 徳永隆一



青年江原会の皆様には益々御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。

思えば就任して以来、青年江原会の皆様にはその熱き思い、行動力に圧倒されっぱなしの毎日でございました。総

会は勿論、各地区の江原会に参加させていただいた際にその団結力と士君子魂、他の同窓会ではあまりみられない心のつながりを強く感じました。正に論語に「好之者不如樂之者」楽しむことを最高の喜びとされている姿に共感し、時には励まされる1年間でした。特に、藤崎宮例大祭飾馬奉納では、肅々とした中にも皆さんの心意気を十分県民の皆様に具魅(こめ)せていただき、こ

こに青年江原会有り、熊高有りと誇示できたのではないかと思います。学校での出陣式も合わせて、在校生にとつても母校への帰属意識がまた強くなり有り難く思っています。一方、皆様方の先輩諸氏に先鞭をつけていただいたイトン校との交流も、今年度は全世界的なSARS騒動のために実施できず歯がゆい思いをしました。その後9月1日、イトンカレッジ理事のブラウドフット氏が本校を敬訪問され、始業式で全校生徒に親しく挨拶をされたり、青年江原会・同OBの皆様の大会迎もあり、来年以降の継続も

約束をされたものと安心しているところですが、更なる交流の深まりを求めています。在校生諸君も日夜文武両面から士君子の基礎作りを励んでおります。ある意味では「ムリ、ムラ、ムダ」を楽しみながら、たびたび新聞紙上にも紹介されるような、でかいことをしてかしております。今後とも皆様方の後輩諸君への御支援、御指導をお願いいたします。終わりになりますが、今後の青年江原会の益々の御発展と会員の皆様の御活躍、御健勝を心から祈念申し上げます。

飾馬奉納を終えて

平成15年度飾馬奉納実行学年

実行委員長 下川 泰

(59会高36回・S59年卒)

前年度の先輩方が素晴らしい祭をされたのを間近でみて、私たちも同じ様にできるのだからと不安いっぱいでしたが、私たちの学年で途切れてしまうのだけはしたくないという思いもあり、次年度に続けることを私たちのコンセプトにおり込み、1年間頑張ってきました。

例大祭が終わった後、いろいろな方から「苦労さん」と声をかけていただきました。ありがとうございます。ほんとに同級生が集まってくれなかったら、なにもできなかった。いろんな場所で、たくさん同級生がいたから無事最後までやり遂げられたというのを、振り返ると実感します。声をかけてもらう度に、いっしょにやってきました。すべての同級生にその「苦労さん」の言葉をそのまま伝えたいと思いました。59会のみならずはすばらしいです。最後にになりましたが、熊本高校の先生方をはじめ諸先輩・後輩の皆さん、関係者の皆

飾馬奉納に向けて

平成16年度飾馬奉納実行学年

実行委員長 藤木 康雅

(60会高37回・S60年卒)

今年の藤崎八幡宮秋季例大祭は高37回、60会が実行学年となり、私藤木康雅が実行委員長を務めさせていただきます。

今年、青年江原会が1975年に初めて飾り馬を奉納して、30周年の節目の年にな



ります。

30年の承

きにわたり先輩方が育ててこられました伝統を引き継ぎ、また、後輩諸君に伝えていきたいと思っております。

藤崎宮秋季例大祭

皆さん大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。



祭りを盛り上げる3隊紹介

馬廻り 隼



役割 勇壮な馬追いを見せること
由来 メンバーが集まるように「集」にするつもりだったが、登録時に初代隊長が間違えて「隼」と書いてしまった。(ヘー 80、嘘です。当時の人に話を聞きましたが、はっきりした由来がなく「適当に書いといてくれ」とのこと)
隊長名 荒木邦生(高2回、S50年卒)
構成 名簿上35名ほど(S31~H15卒まで)実働部隊は25名程度、公務員(市、県、教職員)が一番多く、自営業、医師、大学生で構成。いつけがをしても大丈夫、うちの名医が気合いで直してくれます。
日頃の活動 5月末に結団式、6月から祭直前まで古閑牧場(合志町)において毎日曜日6:30より練習、超健康的な団体です。
PR 去年入隊の牧野です。練習の後の爽快さが最高、先輩方が皆優しい人ばかりでとてもいい団体です。特に福島先輩が最高です。最近会ってないので自分で書きました(福島)
連絡先 福島理仁(副隊長、高30回、S53年卒) ☎090-5388-5626 菊地 徹(事務局長、高30回、S53年卒) ☎090-1977-1402

楽隊 風雷神

役割 勢子の笑顔を引き出す為の裏方
由来 太鼓は雷神のように、ラッパは風神のように気合の入った音を出せるようにという願を込めて初代楽隊長の片山先輩(現総取締、高21回、S44年卒)が命名。
隊長名 豊岡秀人(高30回、S53年卒)
構成 S37~H15卒の自営業、医師、公務員、会社員など様々な業種と最近増えてきた大学生で構成(総隊員数は約45名)
日頃の活動 3月頃より自主練習を開始し、8月から母校体育館で練習。江原会総会等、年数回出前依頼あり
PR 多くの先輩後輩と出会い、短い高校生活では学べなかったことをたくさん学ぶことができます。(阿南浩太郎 高53回、H13年卒)
連絡先 山崎友裕(副楽隊長、高35回、S58年卒) ☎090-8227-0927 t-yamasak@rōodn.ne.jp



纏隊 匠



役割 掛け声を揃えて風雷神と一体化した「祭りの音」を形成し、隼の後に位置して飾り馬に気合いを入れつつ、勢子隊へ乱入し、祭り全体を盛り上げること
由来 纏振りの技を極めることを目標として命名
隊長名 濱 清輝(高29回、S52年卒)
構成 初代隊長(宮村健一朗 高23回、S46年卒)を顧問に置き、隊員28名(S46~平1卒)及び隊友として女性4名(H11年以降の前夜祭指導者)、医師、公務員、教員、自営業が各数名のほか、弁護士、金融関係、企業等で構成
日頃の活動 全体の集いとして、新年会、総会(夏季)及び例大祭打上げの3回、本格的練習は7月下旬から母校体育館で練習
PR 我々は、飾り馬を追う隊列の顔とも言える重要な役割を担っています。最初は小纏から、そして徐々に鍛練を積み、大・中・小の纏を自在に操れるようになったとき、真の「匠」となれるのです。あなたも、纏隊に入りませんか?
連絡先 濱 清輝(隊長) ☎090-4518-8440 竹田尚史(事務局長 高34回、S57年卒) ☎090-9583-6068

レクリエーション大会を振り返って

鹿瀬島正剛

61会(高38回、S6年卒)

昨年の青年江原会レクリエーション大会のたくさんのご参加ならびに、たくさんの御樽を頂き、まことにありがとうございました。

一昨年、60会の先輩方からこのレクリエーション大会の幹事を引き継ぎ、昨年の5月ころから61会の同期と打ち合わせを始めました。

私たちの学年が目標としたのは、「ファミリィで楽しめる大会」というものでした。そこで、月並みとは思いますが、

たが、ボウリング大会を企画することになりました。

当日は、総参加人数90名を超える多数の参加をしていただきましたが、特に、61会が嬉しかったのは、ファミリィでの参加が思った以上に多かったこと、平12会以降の若い後輩の諸君が多数参加してくれたことでした。大会ルールとして、「女性とお子さまにはハンディ30」としたことにより、より大勢の方に楽しんでいただけたので、

準備不足のため、当日いろいろと不手際もございましたが(弁当が足りなかったりという心配をしましたが)、結果的には、「ファミリィで楽しめる大会」という61会の目標を何とかクリアできたのではないかと考えております。

今年も、楽しいレクリエーション大会を期待しております。

62会の諸君頑張ってください。



「いやー楽しかった。若い子も案外積極的だね。」ウエルカム青年江原会終了後、57会メンバーからの第一声であった。

昨年からはまったこの会は青年江原会活動の周知と若年層の活動への参加のきっかけを作ることを目的に始められたもので、58会の頑張りや若年層の参加者を発掘、様々な青年江原会行事、そして祭りを盛り上げるという目標を達成することができた。

今年も、昨年の成功を受け新たな人材の発掘とより幅広い意味で青年江原会とその活動を理解してもらおうと

昨年同様、定例の会として計画されていくと思われ、若年層の会員がより参加しやすい会になるよう、さらに名簿の拡充を図り、充実した企画をもとに、より幅広く、楽しい会に発展していきたいという課題として、

男性が少なかったこと、人数を増やすための開催時期、連絡方法の再検討

二次会のセッティングについて

などが挙げられる。

個人的には、自己紹介の際に祭りを含めた青年江原会の活動が、同級生の輪を広げることにつなげたことを57会の女性から実際の言葉として聞くことができて、とてもうれしかった。

後輩たちにも青年江原会の活動を通じて、高校の同級生のすばらしさ、そして一つのことをやり遂げた感動を是非味わってもらいたいと思っています。

ウエルカム青年江原会

馬場太果志

57会(高34回、S5年卒)

昨年同様、定例の会として計画されていくと思われ、若年層の会員がより参加しやすい会になるよう、さらに名簿の拡充を図り、充実した企画をもとに、より幅広く、楽しい会に発展していきたいという課題として、

男性が少なかったこと、人数を増やすための開催時期、連絡方法の再検討

二次会のセッティングについて

などが挙げられる。

個人的には、自己紹介の際に祭りを含めた青年江原会の活動が、同級生の輪を広げることにつなげたことを57会の女性から実際の言葉として聞くことができて、とてもうれしかった。

後輩たちにも青年江原会の活動を通じて、高校の同級生のすばらしさ、そして一つのことをやり遂げた感動を是非味わってもらいたいと思っています。

平成15年5月17日(土) 紅蘭亭にて開催



年会費 2,000円(学生は1,000円) **江原会会費納入のお願い**

振込先 郵便局 01980-7-23601 肥後銀行東支店 普通 1148311

名称 熊本高等学校江原会財務委員会

振込氏名には、卒年ご記入ください。是非お願いします。

昨年引き続き、今年も新年会に100余名という多くのご参加並びに沢山の御樽を頂き、誠に有難うございました。

私たちがすると、親よりも年上の大先輩から一回り以上年下の後輩まで、皆様方のご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

一昨年末、61会の増永先輩から62会の吉村君が幹事を引き継いだものの、昨年の3月に東京への長期出張となり、まずは同期の面々を集めるところから始まりました。

幸いにも協力してくれるメンバーもどんどん



平成16年1月24日(土) KKRホテル熊本にて開催

河合サテライト講座

河合サテライトネットワーク校 — 知究館 —

究極の映像授業で実力アップ!

河合サテライト講座では、コンピューター・グラフィックスをはじめ各種実験映像、ロケ映像などの映像素材を駆使して、「黒板とチョークを超えた」、よりわかりやすく本質的な理解を深める「進化した授業」を提供します。

東大・九大・熊大



熊本ゼミナール・高校部
〒862-0971
熊本市大江6丁目25-17
TEL.096-371-2001

新年会

を振り返って

荒木 雄一
62会 高39回・S62年卒

増え、新年会というイベントを期に62会としての組織作りも出来てきたなと感じております。

また、準備を進める中で先輩方から温かいアドバイスを頂いたり、

あつたものの、皆様に楽しんで頂けたのではと思っております。

63会の皆さんも、力を合わせて来年も楽しい会にして下さい。期待しています。

おかげ様で 励まされたりと大変感謝しております。

若干不手際は

welcome

江原太鼓物語

代表世話人 鬼木 顕正
56会(高33回、S56年卒)



それは体育館ステージから始まる。パタービーン二人分はあろうかと思われる大太鼓を十人掛りでフロアに降り、エレベーターに向かうのかと思いきや「階段かよ!」と軽いツッコミを入れる間もなく両腕に伸掛る重み。「危ないと思ったら手を離してよかぞ」と言われても一千万は下らないと聞かされたからには大股骨骨折くらいじゃ許して貰えないよな。何度も逃げようかと思っている内に何故か愛おしくなってしまう大太鼓君

お世話したい方は
konk@vodafone.ne.jp
迄ご連絡願います。

